

## 議事録（要旨）

会議名称	第2回 葛飾区リサイクル清掃審議会
開催日時	令和元年9月27日（金） 午後3時30分から午後5時30分まで
開催場所	エコライフプラザ 2階 研修室
出席者	（審議委員5名） 崎田会長、庄司委員、谷茂岡委員、佐々木委員、（委任状出席）秋山委員
欠席者	朝倉会長職務代理者、大山委員、杉野委員、大沢委員、谷本委員
会議内容	1.開会 2.傍聴者へのアナウンス 3.配付資料の確認 4.第1回の振返り （1）議事録確認 （2）補足資料説明 5.審議 （1）食品ロスについて （2）今後のスケジュールについて （3）その他 6.閉会
会議資料	資料1 「傍聴されるみなさまへ」 資料2 第1回審議会議事録要旨 資料3 第2回審議会用資料（1）（2）

発言者	審議内容
A 委員	<p><u>1 開会</u></p> <p>それでは定刻になりましたので、第2回葛飾区リサイクル清掃審議会を始めます。よろしくお願いいたします。</p>
A 委員	<p><u>2 傍聴者へのアナウンス</u></p> <p>本日は傍聴の方がお越しになっています。お配りした「傍聴されるみなさまへ」という資料をご覧ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 携帯電話などの電源はお切りください。</li> <li>2. 写真撮影や録画・録音はご遠慮いただきます。</li> <li>3. 静粛に傍聴してください。</li> <li>4. 飲食・喫煙などはしないようにしてください。</li> <li>5. 傍聴中はみだりに離席されないようにしてください。</li> <li>6. 配付した資料はお帰りの際に事務局にお返しくください。</li> <li>7. その他、会長および事務局の指示に従ってください。</li> </ol> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
A 委員	<p><u>3 配付資料の確認</u></p> <p>それでは今日の配付資料の確認です。皆様には事前に「第2回審議会用資料(1)(2)」を郵送しています。そのほか机の上に用意された「第1回審議会議事録要旨」と、今日の資料があります。足りないものがありましたら、事務局にお知らせください。</p> <p>本日の進め方は、まず第1回審議会の振返りをを行います。それから、今回の審議は、「食品ロス」をテーマとして進め、後ほどご意見をいただきたいと思います。また、最後に今後のスケジュールのご相談をします。全体で2時間を予定しています。ご協力お願いいたします。</p> <p>それでは第1回の振返りについて事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p><u>4 第1回の振返り</u></p> <p>(1) 議事録確認</p> <p>本日ご用意した議事録は、まだ案の段階ですので傍聴者の方にはお配りしておりません。ご了承ください。</p> <p>また、議事録には個人名は載せていません。審議会委員の皆様のご確認</p>

	<p>の後、区のホームページに掲載する予定でございます。修正点等ございましたらリサイクル清掃課宛てにご連絡をいただければと思います。</p> <p>(2) 補足資料説明 —前回あった質問への回答として、未実施項目や集団回収について、今回配付した資料の内容を事務局が説明—</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。前回の意見交換に対する回答ですね。資源回収と資源化率については、次回の資料にも使えると思います。次回に向けて、提案や質問、こういう資料があった方が良いというご意見があれば伺います。</p>
C 委員	<p>設定された最終的な目標にまだ届いてないという事が、数値的に出ていますが、おそらくなかなか数値が上がってきていないという状況だろうと思います。その辺りを資料として記載していただきたいと思います。今後の対策を考えていく上で、そこが一番ポイントだと思います。</p>
事務局	<p>次回の資料には、区が目指している資源化率の目標値と、現状値の推移について記載したいと思います。</p> <p>資源化率は令和4年度に32.7%とすることを目標としており、直近10年間は22～23%を推移しています。</p> <p>また、燃やすごみに含まれる厨芥ごみは平成24年度に52.0%だったものが、平成30年度では34.3%まで減少しているのに比べ、紙類は23.6%だったのが現状34.5%くらいに増加しています。そのため、まずは紙類の分別を進めることが資源化率を上げることに繋がると考えます。</p>
C 委員	<p>課題を理解し検討する上での基礎資料になるので資料作成についてお願いします。厨芥ごみが減るのはライフスタイルの変化からして当然ですよ。どの程度まで数値的に把握しているのか、目標を立てていれば教えてください。</p>
A 委員	<p>食品ロスに関しては、今日の中心テーマということで、この後資料提示がありますので、そこで意見交換を深めたいと思います。今回は資源化率を上げるというテーマで、何が課題なのか、どうしたら良いかが明確になる資料をご用意いただければと思います。</p> <p>昨日、海洋プラスチック問題に関して、プラスチック系買い物袋の有料化に関する委員会がスタートしました。有料化は来年の4月1日からスタートしたいという案がでていますが、準備に時間が必要という業界意</p>

	見もあります。ただし有料化に反対する意見はほとんどありません。まず明確に発生抑制をする社会にしようという意見交換が始まったという情報提供です。
C 委員	発生抑制については、今回は議論する段取りはありませんが、その事も念頭に置きながら議論するということですか。
A 委員	そうですね。基本的には食品ロスも発生抑制ですし、次回（第3回）で扱う資源の話題についても発生抑制のことも踏まえた上で、お話できればと思います。 皆さんそういう形のスタートで宜しいですか。  —委員一同、了承—
	<u>5 審議</u>
A 委員	（1）食品ロスについて 本日のテーマである食品ロス削減について資料を準備していますので、そちらの説明をしてから意見交換をしたいと思います。
事務局	では皆様、第2回審議会用資料（2）をご覧ください。 —食品ロスに関して、世界の情勢、国や都の取り組み、家庭系と事業系それぞれの食品ロス削減目標など、資料の概要を事務局が説明—
A 委員	食品ロス削減法という議員立法が通りまして、令和元年10月1日から施行される予定です。国が食品ロス削減の基本計画を作るのは義務化され、都道府県の各自治体も基本計画を作るのが努力義務となる法律です。10月が食品ロス削減月間、10月30日が食品ロス削減の日となります。
事務局	続いて葛飾区の現状についてご説明差し上げます。 —食べきり使い切り普及啓発について、食べきり使い切りコンテストについて、フードドライブ事業について、3010運動について、葛飾区の食品ロス量の推計について、それぞれの概要を説明。また参考資料として東京23区の食品ロス対策と、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会の施策を紹介—
A 委員	ありがとうございます。私から質問させてください。葛飾区の食品ロス量の推計に関して、直接廃棄の量が出てきていますが、これに食べ残し

	<p>の量を合計したものが食品ロスと言うのではないのでしょうか。</p>
C 委員	<p>参考までに、直接廃棄というのはどういう意味なのですか。</p>
事務局	<p>食品ロスの定義は会長の仰る通りです。 直接廃棄 100%というのは、全く未開封で捨てられたものです。そして50%以上というのは開封された状態で半分以上残っているもの。50%未満というのは半分未満で残っているものです。</p>
H 委員	<p>かつしか食べきり協力店事業について、成果はどの程度ですか。食べきり使い切りコンテストは、ぜひ子どもバージョンもやっていただきたい。</p>
事務局	<p>協力店事業の成果は、今後アンケート調査実施を検討中です。現在のところはなるべく多くのお店に協力店として登録していただくという段階です。 コンテストにつきましては、来年度から実施予定ですので、子どもバージョンの実施は改めて検討させていただきます。</p>
A 委員	<p>地域の小売店や外食店から出る食品ロスを減らしていく為の施策として、食べきり協力店事業などの取り組みがある、と理解すれば宜しいのでしょうか。</p>
事務局	<p>現状の食品ロス対策は家庭系に重点を置いています。 事業系は、事業の活動の中で食品ロス削減を図っていくような情報提供をしたいのですが、情報提供をするためのヒントを審議会の方に考えていただければと思います。</p>
A 委員	<p>家庭から出る食品ロス削減を中心としつつ、事業者さんもうまく巻き込んで、社会全体で無くしていく事に向けて、情報発信が必要となる、という理解で宜しいですか。</p>
事務局	<p>事業者に向けてアプローチを始めていますが、事業者側のコストの問題などでまだ成果は出ていません。ですが、10年に1度のこの審議会開催を契機に、もう少し強くアピールしていきたい意気込みです。</p>
F 委員	<p>食品ロスの議論は、問題はいっぱいありますので、欲張らずに、最初はまずかつしかルールを話し合うのが良いかと思います。</p>

A 委員	この議論は対象が幅広くて難しいので、まずはかつしかルールで考えようという大事な提案をいただきました。ありがとうございます。
C 委員	今までは、事業系のごみに関する施策がほとんど出来ていませんでした。事業系と家庭系の混合、両方入った施策としてかつしかルールが出来たら、日本全国の手本になりますし、作りたいです。 事業系ごみも実は家庭系ごみが姿を変えたものです。昔は家庭から出ていた調理残渣が、今は小売りのスーパーから出ています。事業者も、消費者としての区民と同じシステムに取り込んでいければ、それがかつしかルールの形になると思います。
F 委員	食品ロスの問題は、賞味期限が原因でもあります。美味しい期限ではあるから参考にしても良いが、捨てる参考ではないという自覚を、消費者が持たなければなりません。
A 委員	ありがとうございます。話を総合すると、その事業系と家庭系とを一緒にするのは具体的にどういうことでしょうか。 外食店の食品ロスに関して、一番の食品ロスは、お客様の食べ残しです。それを減らすには、例えば小盛りのメニューを頼めるようにするとか、注文する時に一声かけるとか、残したものを自己責任で持ち帰れるようにして、食べ残しを減らしていく。 そういう具体的な場面を考えてかつしかルールとして呼び掛けていくにはどうすれば良いか。
H 委員	広い話になると思うので、今日の資料に書かれているかつしかルールを土台にして話を進めていくのが良いかと思います。更なる新しいかつしかルールが、この審議会の中で生まれると良いと思います。
A 委員	本日の資料には、現在葛飾区が実施している施策が出ていますが、これを活用して葛飾らしい取組み、食品ロス削減に関するかつしかルールができないか。また、その上で、足りない部分はどこにあるかを、地に足を付けて議論していくべきだというご提案ですね。 では、付け加えた方が良いもの、膨らました方が良いものなど、今お感じになっていることを教えていただけますか。
H 委員	学校は、社会の縮小版です。栄養士さんが作った献立で給食があるわけですけど、食べ残しがかなりあります。栄養価の計算に従い、食べたくなくても、提供されます。ですから学校で、食べきり使い切りコンテス

	<p>トの子どもバージョンをやるのが良いかなと思います。</p> <p>また 3010 運動を実践しても、かなり食べ残しがあります。残ったら持ち帰れば良いとなっても、安全衛生上の問題でだめだったりします。そのため、3010 運動はすごく良い啓発活動だと思います。</p>
A 委員	<p>3010 運動に関しては、京都市で2年間かけて調査したところ、声を掛けると食べ残しが5分の1に減るというデータが出ました。そういうことが分かると、皆さんやっていただけたらと思います。</p>
H 委員	<p>学校でも、栄養士さんが子どもたちにきちっと説明すると、子供たちは食べるんです。声掛けによって随分違うというのは納得です。</p>
A 委員	<p>食べ残しの持ち帰りの話も、最近は食品ロスの多さもあって、厚生労働省も方針を変えて、お客様の自己責任で持って帰るのは認めるという通達を2年前に保健所に出していただいています。</p>
F 委員	<p>小さいお店は持ち帰りを可としています、大きいお店はもし何かあったらと警戒しています。持って帰るかは自己責任ですけど、消費者もよく勉強しなければなりません。</p>
A 委員	<p>自己責任で、持って帰って家で食べる事が言い出せる流れが出来ていけば良いですね。</p> <p>食べきり協力店で、関心を持っているお店もあります。</p> <p>お客側から言い出しやすいように、メニューの所に何か一言書いておく事も大事だと思います。</p> <p>話をまとめますと、既にある家庭系と事業系の食品ロス削減の取り組みを深く広げ徹底すること、その成果を可視化することが大事になります。あるいは食べきり使い切りの普及啓発やコンテストといったものを子どもたちに伝えるのも大事です。そうやって対象を明確にするのが大事ですね。</p>
F 委員	<p>葛飾区の広報紙に時々載っている、皮を剥いても食べられるという料理方法。あれは良いと思います。</p>
A 委員	<p>区民の暮らしに定着すれば成果が出ます。急に新しい事をするのではなく、今までの取り組みを徹底させることが大事です。</p>
C 委員	<p>具体的な施策から考えるのは大切ですね。この資料に載っている葛飾区</p>

	<p>の5つの取り組みが、概ねそれに該当するかと思います。</p> <p>違う視点から言いますと、具体的に施策化する際は、役所の中で縦割りにならないよう、横のつながりが大事になってきます。</p> <p>たとえば学校に関する何かをやる場合、教育委員会に協力してもらわないと困ることが多くあります。</p> <p>区長さんのリーダーシップが求められます。</p>
F 委員	<p>環境問題は今の子どもより親の世代が学べていません。それだけ教育は大事だと思います。</p>
H 委員	<p>学校は給食があり、食の問題について毎日扱っていると言えます。食品ロスを無くす大きな啓発活動だと思います。土曜日の葛飾教育の日には、親が多く参観します。その時に食の問題を扱えば、親も学ぶことができます。</p>
A 委員	<p>既にやっている施策はバランスも良いので、それらを学校でもやるようにすると良いかもしれません。成果が出るよう、葛飾区としてやりやすい形で実施すると思います。</p>
事務局	<p>施策の成果については、区民アンケート等での分析を考えています。</p> <p>学校については、環境学習用の資料を提供したり、出張講座を年間2～30件ほど行っていますが、実施する学校が偏っていたり、授業に取り入れるまでには至っていないので、教育委員会にご協力いただくことも検討したいと思います。</p>
A 委員	<p>フードドライブ事業がありますが、現在は区が主催して、集まったものをセカンドハーベストジャパンに寄付する形です</p>
F 委員	<p>スーパーなど事業者がやろうとしても人手が足りません。区と協働したり、まちの人に手伝ってもらおうなどして、月に1回2回はやって欲しいと思います。</p>
事務局	<p>フードドライブ事業は、地域のイベントを利用しようと考えています。</p> <p>のぼり旗や食品を入れるコンテナを提供するなど、情報提供はしています。</p>
A 委員	<p>集まる量が増えると、今度はフードバンクになりますが、まだ取り組みが足りないところもありますので、検討を進めたいと思います。</p>

	<p>小売店などと連携しながら、決め事を明確にして、受け取る側とも信頼関係をうまく作ることができれば、うまく回ると思います。</p> <p>ただフードドライブをやると、寄付するためにわざわざ買い物をしてしまう人が居たりもします。</p>
H 委員	<p>私は何年も葛飾区で活動していますが、「かつしかルール」という言葉は知りませんでした。しかし、水切りや食べきり使い切りという中身についてはよく知っております。せっかく葛飾のためのかつしかルールですから、もっと啓発するべきではないでしょうか。</p>
事務局	<p>かつしかルールは現在、雑紙の分別、生ごみの減量、という2項目に取り組んでいますが、周知に関して工夫が足りないと感じています。</p>
A 委員	<p>子どもたちがみんな知っている言葉にしたいですね。</p> <p>「食べ切らないといけない」というよりは、前向きなイメージで周知していただくと良いかもしれません。</p>
C 委員	<p>食べきり協力店に登録している小売店とは具体的にどのようなものなのでしょう。</p>
事務局	<p>一袋で売るのではなく、ばら売りにするような取り組みをしている小売店に登録をいただいています。</p>
A 委員	<p>小売店の方とお話をすると、消費者の方が棚の奥から商品を取り出すのは困るけれど、それをお客様には言えない、ということをよく聞きます。葛飾区は食品ロス削減に関して取組みを始めているけれど、それを子ども向けに学校と協力しながらやるとか、あるいは家庭向け、事業者向け、という対象を明確にして、効果がちゃんと出るように徹底する。まずはそこから始めて、かつしかルールとして定着させるのが大事だと思います。</p>
C 委員	<p>普及啓発のやり方について、大前提を置くのが大切です。例えばパンフレットに作る時には、目的と効果を示すのが重要です。ただ、それが前面に出ると理屈っぽくなるので良くないです。</p> <p>今まではごみ問題の3Rのうち2番目のリユース（再使用）、3番目のリサイクル（再生利用）が重点になっていましたが、改めて重要なのは1番目のリデュース（発生抑制）です。今日の議題はまさにそのリデュースです。</p>

A 委員	<p>子どもたちに伝えることが大事で、命の恵みである食材に感謝しながら美味しくいただくのが基本として、それでも食べ残したものは持ち帰って食べる、皆で分け合うなど、そういう食品リサイクルの全体像が見えると、子どもたちにも伝わる事が多いはずです。</p>
H 委員	<p>3Rっていうのはリスペクト (Respect) のRという意味も含まれていると思います。小学生も英語を習っていますのでリスペクトの意味は分かります。人間が命をつなぐために命をいただいている食べ物に感謝をするという意味も含まれているということです。</p>
A 委員	<p>行政に横のつながりがないと、全体が見えるような施策にはなりません。今日の議論は地に足がついた形で良かったと思います。既に葛飾でやり始めている事を、より効果的にするには、行政の内外でしっかり連携して、大きな流れを作っていくのが大切だと思います。</p> <p>それと成果をどう出すかも大事です。普及啓発はなかなか成果が見えないので、一年で生ごみが減ったという効果が出て欲しいと思います。</p> <p>イギリスの研究者がある町に提案をして、食べ残しを減らそうというポスターをスーパーに貼り、地域のラジオでもたくさん言っていたいた実験があります。それを3ヶ月間やったところ、生ごみが12%くらい減ったそうです。</p> <p>苦労はするけれど、そのように成果を実感するところまで考えられるといいですね。</p>
F 委員	<p>都でも、食品ロス削減パートナーシップ会議をやっています。そういった会議もふまえてと一緒にやってやらないと、もう間に合わないですよね。</p>
A 委員	<p>東京オリンピック・パラリンピックに関する会合の中でも食品ロス削減に関する話題がありました。アスリートの方は健康管理が一番なので、作ったものは一時間しか提供してはいけないなど、食品ロスが出るようなルールがあります。</p> <p>今はオリンピック開催の一年前なので、色々な実験をやっています。何も言わないで提供するとかなり食べ残しが多くなりますが、食品ロスのポスターを貼ってみると、どんどん減ったりしています。しかし、ベストコンディションを作らなければならないスポーツマンにどこまでそれを言えるのか、難しいです。ホテルや旅館が食品ロスに関心を持てば、かなり進むと思います。</p>

A 委員	<p>今日は非常に良い話し合いが出来たかなと思います。</p> <p>(2) 今後のスケジュールについて</p> <p>(3) その他</p> <p>今回は「資源類の分別推進」をテーマに資源化率の向上や発生抑制について。紙類の回収や集団回収、プラスチックの話を中心に進めます。</p> <p>3R+リニューアブル（再生可能）+資源回収をうまく回し、再生資源をしっかりと使っていくことは、プラスチックに関する話の中でかなり強調しています。そこからサーキュラーエコノミー（循環型経済）の流れを作ると強く言われています。</p> <p>そういった点に関して、葛飾区の現状や課題、今後の展開など、それらをイメージできる基礎資料をうまく作っていただき、お話をしたいと思います。</p> <p><u>6 閉会</u></p>
事務局	<p>今日は、非常に濃密な意見交換が出来たと思います。</p> <p>毎年10月にはごみ減量キャンペーンをおこなっていますが、そこでは使い終わったプラスチックのポイ捨てをやめようと呼びかけたり、マイクロプラスチックを作り出さないように働きかけています。</p> <p>この問題は、地球温暖化に直結する、人類存続をかけた問題です。オーバー過ぎるかもしれませんが、それくらいの重みがある仕事だということ念頭に置きながら、今後も引き続きご検討お願いできればと思います。</p> <p>今日はありがとうございました。</p>
A 委員 一同	<p>皆さん次回もよろしくお願ひします。お疲れ様でした。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>